

老後の安心を確保するため62歳で入居。入居してから 東京まで通勤してました。 今は仲間と存分に楽しんでいきます

伊豆高原(ゆうゆうの里) 関谷 健治様(78歳)平成19年12月 一人入居



大手の重工業企業で42年間クレーン設計技師として働きました。

大手重工業企業で重機の設計技師をしていました。具体的に言えば、天井クレーンやクライミング

クレーンというもので、高層ビルの建設や発電所など大きな構造物の建設に使用するクレーンです。計算することが好きでしたので、大学も工学・力学系に進み、この職業と出会いました。卒業と同時に22歳から勤めて、定年の60歳までの38年、加えて再雇用で4年の42



〈ゆうゆうの里〉の庭園でグラウンドゴルフの練習

年間勤務したことになりました。高度経済成長長期で日本の産業に活力があった時代に、自分の設計したクレーンが使われて、実際にビルが建つのが楽しさで、そこに魅力も感じました。

退職した後の生活が不安でしたので、定年とともに安心・安全のある環境を確保しました

独り身でしたから、将来の不安を漠然と抱えており、定年前から老後の安心と安全な生活を確保したいと考えていました。それにこの伊豆高原には会社の保養所があつて、旅行でもよく来ていたので、(ゆうゆうの里)が近くにいたる事も知っていました。私は定年とともに仕事をきっぱり辞めて、一所懸命働いた自分へのご褒美に好きなことをして、ゆうゆう自適に暮らしたいと思っていました。私は、生まれも育ちも東京でしたから、自然の中で暮らしたいとも思っていましたので、自然豊かなこの環境がとても気に入りました。引越した時には、「環境が違う!」と感動しましたね。空

退職して自由の身になってから、伊豆高原が「我が棲家」になりました

しかし、入居を決めてから「定年後も続けて欲しい」と会社から強く要請されて、仕事を続ける事になりました。入居してからも退職するまで、伊豆高原から東京まで通勤したのです。朝は早く出て帰りは夜9時を過ぎます。大浴場の利用時間は午後10時までなので、「今日も温泉に入れたらいいな」と願いつながりながら浸かれない時もありましたね(笑)。本当に伊豆高原周辺やゆうゆうの里の施設の価値を感じるようになってからは、仕事に行かなくなつてからです。「これからここでの生活が始まる」と気持ち切り替えてから、他の入居者とも関わりが持てるようになって、ここが「自分の家」と思えるようになっていきました。入居してか

ら5年くらいいかつたかな。かけがえのない仲間と、これからも体力・知力の維持を目標に頑張ります。

今は、トレーニングをしに近隣のジムへ週3回通っています。それと、入居者仲間だけでなく、外部の仲間も増えました。そのお付き合いを大切にしています。どんな仲間と何をやっているかですが、入居者仲間と立ち上げたグラウンドゴルフサークルは月2回。パークゴルフは入居者と外部の方とも一緒に行っています。陶芸は、城ヶ崎駅近くに市の福祉施設の陶芸窯があつて、そこでやっているグループの仲間に入れてもらっています。今は6人で作品を作っています。時にはフリマで安く売っています。時には売上げは仲間との親睦会の飲食代に使っています。いろいろな友人がいてね。野菜作っていたり、花を育てていたり、お裾分けがあるんですよ。いろいろな仲間との交流はとにかく楽しいです。一週間がすごく短く感じるほど充実しています。他にも多くの出会いの場があります。市が開催している「ゆうゆうの里」もそうです。これは市の歴史や観光など、二年間同じ仲間と学べます。近くのフィットネスジムに行っても顔馴染みができます。とにかく、80歳手前にして、これから体力と知力の維持を目標に頑張つていきます。